

HAKUOH JHS NEWS

白鷗大学足利中学校新聞 -vol.74-



発行所／白鷗大学足利中学校新聞委員会 足利市伊勢南町4-3 TEL.0284-42-1131

楽しく思えば頑張れる

一年生が「ことばの貯金箱」ワークショップ体験

四月三〇日、白鷗大学の渡辺裕子先生をお招きして、一年生が「ことばの貯金箱」を体験しました。古新聞から気に入った言葉を切り抜いて台紙に貼っていくものです。保護者が参観し、新聞社の取材が二社入るなかで、生徒たちは楽しそうに取り組んでいました。作品と感想を紹介します。

「キラリ☆」輝く

中里 周親

ぼくは将来みんなに感動をあたえられる人になりたいです。それで、この貯金箱の中には感動へつながる言葉を貯金してみました。



をかけ合うという「ことばのちから」があります。得点につながるためのポジションがあります。

「みんなが主役」なので、全員が「キラリ☆」輝いています。ぼくはそんな仲間を「感謝」し「思いを胸に」プレイします。もともと練習し、上手になつて勝負に勝ち「感動」をあたえられるようになりたいです。そして勉強にも励み、ことばの貯金を増やしていきたいです。

楽しく思えば頑張れる

南齋 碧

私はことばの貯金箱の作品で一番のお気に入り、サッカーで後ろにそつてボールをけるうと



している子の笑顔のシーンです。最初に心に響いたのはこの子の表情で、貯金箱に入れ、合言葉を言った時はすごくうれしくて、楽しいなと思えました。そして、貼る時、まず笑顔の子の写真を貼りました。そして、一番心にのこつた言葉「楽しく思えば頑張れる」という言葉を貼ろうとしたけど、どこに貼つたらいいのか少し悩みました。しかし、サッカーをやっている子がその時、「楽しく思えば頑張れる」と言っているような気が

作品で一番のお気に入り、サッカーで後ろにそつてボールをけるうと

は人を傷つけるためにあるのではなく、人を幸せにするためにあるのだと思う。「...」でした。

渡辺裕子先生よりメッセージ

こんにちは！お手玉先生の渡辺です。この間は、とっても楽しい時間をありがとうございました！「ことばの貯金箱」に好きな言葉をいっぱい貯めて、ことばの億万長者になろう！とこんなキャッチフレーズで始まるのが「ことばの貯金箱」でしたね。今

回、みんなに出会えたことを神様に感謝したいと思います。だってこんなに素敵な中学生に会えたんだから。一人一人の作品をみせてもらって、ウルウルしてしまいました(涙)。素直で優しい気持ちと中学生らしいみずみずしい感性が、ほとばしるようにいっぱい表現されていました。とこぼれ、もう一つのキャッチフレーズ、覚えてるかな？「ことば

「チャリン」の合い言葉でみんなが笑顔で幸せになれたらこんなに素晴らしいことありません。「ことばの億万長者」を目指して、さあ、一緒に「チャリン！」ってね。きっと、幸せがあなたを優し

して男の子の写真の下に貼りました。貼った瞬間私はすごく写真と言葉があっているなと思えました。私もこの写真と言葉のように「楽しく思えば頑張れる」を合言葉、そして私の支えの言葉にしたいなと思えました。あつという間の二時間でした。

家族どうしてこんなにじんわり、ほっこりするんだらう

板橋 絵美

私はことばの貯金箱を、実際につくつてみて、「新聞にはこんなにも温かく優しい言葉があるのだな」と思いました。いつもは見落としてしま



そう大切な言葉をたくさん見つけることができました。私の言葉の貯金

く包んでくれますよ。おみようぬす〜!!*

*仙台方言でまた明日



箱の中には、「自分らしい笑顔」や「あなたの心のサクサク」などすてきな言葉があります。その中で一番心に響いたのは「家族どうしてこんなにじんわり、ほっこりするんだらう」です。家族は今までもずっと私を支えてくれた大切な存在です。だから家族といるとても心が落ち着きます。この言葉を読んで本当にほっこりしました。ことばの貯金箱を体験して、言葉というものはたくさんの人を幸せにするためにつくられたものかなと思えました。

ことばの億万長者

坂上 萌香

言葉の貯金箱に参加して、新聞から、自分の好きな言葉を切りぬくことが、こんなに楽しいとは、自分でもびっくりしました。普段、何気なく読んでいる新聞の中に、面白かったり、可愛かったり、さまざまなお言葉がちらちらめらめらしていることに初めて気がつきました。新聞を読むという、少し抵抗があつて、難しく感じてしまいがちですが、この言葉集めと、その言葉からポスターを作る作業は、とても楽しくて、アツという間に時間が過ぎて行きました。私は、「楽しくて、見ていて飽きないもの」という思いで、ポスターを作りました。この作業を通して、新聞を身近なものに感じることができました。クラスに配られる新聞もたくさんあるので、なるべ



心を熱く

久保寺 慧

今回の僕の「ことばの貯金箱」は、元気をもらえよう、自分にもっと自信を持てるような言葉を選びました。特に僕が最初から入れようと思つていたのは「心を熱く」という言葉です。なぜならこの言葉は、何事も一生懸命に頑張ろうという自分が望んでいたような言葉だったからです。他には「挑戦」「自由」どれをとつても前向きな言葉で心に響くものを選びました。いま、白鷗中の全クラスに毎日六社の新聞がきています。次につくる時、その新聞の文字を生かして違うものをつくつてみたいと思います。



家庭的雰囲気の中で生徒を伸ばす
白鷗大学足利中学校
 ~推薦入学試験制度~
 中高一貫教育コースと進学教育コースの2コースで実施します。

学校説明会 (推薦入試の説明もあります)
 第1回 7月27日(土) 10:00~11:30
 会場：白鷗大学足利高等学校マルベリーホール
 第2回 10月19日(土) 13:30~15:00
 会場：白鷗大学足利中学校
 TEL.0284-42-1131

オープンキャンパス
 9月7日(土) 10:00~12:00
 会場：白鷗大学足利中学校
 授業見学が自由にでき、進学相談コーナーもあります。お気軽においでください。

仕事に誇りを持てる大人になりたい

二年生職場体験報告

足利第一病院

土屋 緋都珠

私は将来医者になりたいという夢があるので、職場体験で足利第一病院を選びました。初日は、薬局、検査室、レントゲン室、病棟で、二日目は、外来、透析室、栄養課でした。とても貴重な体験でした。私は、この体験でも胸を打たれた言葉があります。それは、初日の病棟のことです。病棟では、看護師さんに寝たきりの状態の患者さんがなる、床ずれという病気について教わりまし



た。床ずれとは、寝返りがうてない患者さんがいとも体の同じ部分が当たると炎症が起き、放っておくと皮膚が死んで黒くなったりすることです。それを防ぐために、看護師は、二・三時間ごとに体の向きを変えてあげます。

オーストラリア研修 運命の日

二年生の三月に実施した海外研修旅行の刺激的な思い出を紹介します。

オーストラリアに着いても実感がありませんでした。なぜなら車は左側通行で、周りにはみんな友達や日本人のガイドさんで、言葉も不自由はありませんでした。が、そんな時間は風のように過ぎていきました。

ホームステイ一日目。ホストマザーのエレンが私たちを迎えに来てくれました。優しいエレンは、家へ向かう車の中で話しかけてきてくれました。頑張っって聞きたらどう思うたのさってさっぱりで、結局会話はできませんでした。家に着いてホストファミリーのウィリア

しかしこの作業を怠り、入院当初にはなかつた床ずれができてしまうことを「看護師の恥」というそうです。これを聞いて私は、自分の仕事にプライドを持ち、全力で患者さんを守っている看護師さんがとてもカッコよく見えなりました。私も自分の仕事に誇りを持てる大人になりたいと思いました。

足利税務署

伊藤 有輝

僕は税務署に行きました。特に印象に残ったことは三つあります。一つ目は、名刺交換です。



自分で作った名刺を交換することで、一步社会人に近づいたのではないかと感じました。また、ただどしどし来たけれど署長さんに渡した時は、うれしさもわいてきました。二つ目は、税務調査です。主任の栗田さんが優しく教えてくれたので、売上げと発生する税金が違うことに気づけました。ゲームのようで面白かったです。三つ目は昼食です。係員の方と学校や家族、税務署の仕事などいろいろお話を話しました。おいしいご飯と楽し

ムとエレンと私たちがさっそく散歩に出かけました。海岸沿いを四人で歩きながらエレンがいろいろなことに説明してくれました。だんだん慣れてきた私は、何となくエレンが言っていることが分かってきました。その日の夜は疲れてすぐに寝てしまいました。二日目には、動物園へ連れて行ってくれました。初めてみたコアラやカンガルーはとてもかわいかったです。帰ってきた海へ行きました。その日は風が強くてとても波が高かったです。ひざぐらいに波がくる所で遊んで



いたのですが、遊びに夢中になっていたら大きな波がやってきて、腰下くらいまでぬらしてしまいました。その後、ふつきれた私達は、砂で遊んだり、貝殻を見つけて遊んだり、とにかく帰る頃にはみごとにぬれてしまいました。その夜、夕食中にエレンが明日、フェリーにのせてくれると言っていました。私達は素直に喜び、楽しみにしていました。その時はまだ、あの事件がおこることなど私達は知るよしもなかったのです。

運命の日。私達は、午前中はバザーやショッピングを楽しみました。そのショッピングモールは大きくてイオンとはくらべものにならないくらいでした。午後、フェリーに乗り、私たちは甲板でそれも一番前で海をながめていました。たまたま海水が飛んできてとても楽しんでいた次の瞬間、巨大な巨大な波が私たちに、いや乗客たちに襲いかかってきました。それも、一回だけならまだしも三回も四回も。ルームメイトの瑠衣は爆笑していました。私は半分ヒステリックになってエ

い会話で、僕は幸せな気分になりました。このような体験ができて、僕は今とても気持ちが充実しています。

しまだやラーメン

早川 友菜

私は、佐野市の「しまだやラーメン」さんに職場体験に行きました。特に印象に残っていることは、「あいさつ」です。一日目に行ったときに、皆さんすごく大きな声であいさつをしていてとて



も驚きました。私もがんばってあいさつしようと思いましたが、緊張してなかなかできませんでした。二日目には、だんだんと仕事にも慣れて、職場の皆さんとも仲良くなれ、あいさつも大きな声でできるようになりました。自分で餃子を作る体験もしました。なかなかうまく作れませんでした。が楽しかったです。三日目は、母がお店に食べに来てくれました。お昼には、餃子を作りラーメンのトッピングもしました。この三日間、私は仕事の手順やあいさつのマナーなどを学ぶことができました。次はお客さんとして、お店に行きたいです。

群馬県立館林美術館

表 光

僕は職場体験で群馬県立館林美術館に行きました。一日目、快晴の中、電車と徒歩で自然がきらめく館林美術館に到着しました。その日僕達は、美術館の裏側へと入らせてもらいました。だだっ広い部屋の両側には扉が付いていて、そこを開けると数え切れないほどの芸術品が整列するようになっていました。これは本当にすごい一言で済ませる教育普及の仕事はさせてもらいました。美術館でのルールやマナーの絵を描きました。この仕事は僕にとっても楽しかったです。三日目、この日僕は三日間で一番感動しました。美術館の屋上に上らせてもらいました。そこからは、下



描きました。この仕事は僕にとっても楽しかったです。三日目、この日僕は三日間で一番感動しました。美術館の屋上に上らせてもらいました。そこからは、下

うか。心や命など、人はたくさん大切で素敵なものを持っていきます。それを奪うなどしてはいけません。人は皆助け合っ生きています。それを自ら断ち切ってしまうなんて、本当にいいのでしょうか。そんなに現実には優しくないので、人がいるでしよう。ですが、実際にそうなので、僕は、いつもたくさんの人たちの優しさに支えられて生きてきました。だから、僕は思うのです。いじめはしてはいけないのだ、と。同じ人間の大切なものを、奪ってしまったのか、と。また、いじめとは何なのか、と。僕はしっかしちゃんのような人ではありません。ですが、これから、少しずつしっかしちゃんのようになれば、と思います。少しの行動で、大切なものがなくならずに済みます。他にも僕と同じように思っている人がいるのなら、勇気を持って毎日を生きてほしいと思います。それが、いじめによつて苦しむ人、人々、今苦しんでいる人への最も大切なことだと思ふからです。

二年 岩淵 慈周